

主の洗礼日（顕現後第1主日）

2025年1月12日

風のように

甘木教会

牧師：白川道生

委嘱者：竹田孝一



4 わたしの目にあなたは価高く、貴く わたしはあなたを愛し あなたの身代わりとして人を与え 国々をあなたの魂の代わりとする。 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。イザヤ書43：4-5

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

ルカによる福音書3：21～22

【説教要旨】

2025年は、私たちの生活がどうなるかということは、深刻な課題です。猛スピード変化して、私たちは追い詰められて身動きの出来ないことが今年も起きていくでしょう。決してバラ色の年にはならないでしょう。しかし、私たち洗礼を受けた者は、私たちが予想される変化に対してどう応じていくということではなく、私たちとはどういう所にいるかということが大切です。

「ヤコブよ、あなたを創造された主は、イスラエルよ、あなたを造られた主は、今、こう言われる。」「声が、天から聞こえた。」というように強い意志を持って、このような時代でも神は語りかけてくださいます。「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」と神が、どんな状況にあっても私たちの傍におられるということです。ここに私たちはいるのです。

神の強い意志とはどういう意志なのでしょう。今日、イエスさまの

洗礼を通して、私たちに神は示されています。

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

ルカによる福音書 3:21

神は、イエス・キリストがこの世に来られ、洗礼を受けられるという出来事の中で、「あなたはわたしの愛する子」であるとイエス・キリストに語られた言葉に神の強い意志を私たちに伝えておられるのです。神は、「あなたはわたしの愛する子」と堅い意志を強く、もって、私たちに臨まれるのです。イザヤは、「イスラエルよ、あなたを造られた主は今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」と伝えます。理屈なく、神にあなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ばれる「あなたはわたしの愛する子」なのです。これを信じるのが、洗礼を受けるということであり、信仰を与えられるということではないでしょうか。

ヤコブよ、あなたを創造された主は、イスラエルよ、あなたを造られた主は、今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いて、焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

イザヤ書 43:1-3

私たちは世を生きる限り、猛烈な世界の変化の中で、追い詰められて身動きの出来ないことが、たとえ、洗礼を与えられ、信仰者として生きても起きます。押し流され、焼かれ、炎は燃えつきようという深刻な自分がある。深刻であればあるほど頭も働かず、手も足も動かなくなり、自分が自分自身を縛っていきます。いや、縛られていると感ずるのです。「こう言われる。」、「あなたの名を呼ぶ。」と語りかけて下さる神がおられる

のです。「わたしはあなたと共にいる。」と。私は孤独ではないのです。そして、「恐れるな、わたしはあなたを贖う。」といわれるのです。「わたしの心に適う者」とされているのです。私たちは追い詰められて身動きが出来ずに深刻にはまり、自分は生きるに価値がない、生きるが辛いと命さえ自分から消そうとする私に、いやあなたは「わたしの心に適う者」とであると強い意志をもって、神は私の名を呼び、声をもって語りかけて下さるのです。この声の語りかけを聞くことが出来るということが信仰のダイナミックスで、私は、生きていて良いのだという自分の存在を肯定出来るようになるのです。神は強い意志を持って、「わたしの心に適う者」と私たちを肯定されています。

劇的に猛スピード変化していく世界、私たちは追い詰められて身動きの出来ないことが今年も起きていくでしょうが、私たちは、この変化を受けとめいくのです。そして、私たちとは、「わたしの心に適う者」と神に認められた者です。生きる勇気が備えられます。

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と神は天からの強い意志をもって声をかけてくださっていると、いつもここに帰るのです。自分がどうしたらよいのでなく、神に受け止められた洗礼者であるという事実を見つめるのです。

だから、どうあればよいかと右往左往するのではなく、自分をいたずらに強く飾らなくても、力まなくても、深刻にならなくても良い、あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者であること、水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。という神の強い意志を受け入れていく、「災難にあう時節には災難にあうがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。これは災難をのがるる妙法にて候」という境地が洗礼を受けた者の妙法なのです。

牧師室の小窓からのぞいてみると



宗教が世界から締め出されている受難がますます顕著となる時代が続くだろう。もしかしたら、宗教は必要がないとまで言い切られることが大多数になるかもしれない。

金子晴勇氏は「東西の霊性思想 (YOBEL)」で、「したがってパウロの言葉『自分の利益を求めない』という愛はルターによって、『自己のために生きない』と言い替えられる。これに反して近代的な主体性が自己主張欲に変質すること、つまり世俗主義に変質することによって、宗教を社会から締め出す世俗化現象を引き起こしたのであった。」と言っている。

たとえそうであっても、時がよくても悪くても、パウロの言葉「自分の利益を求めない」ということにいつも目を覚まして進んでいくとき、宗教は、世界を変えていくだろう。



園長・瞑想？迷走記

卒園生にクリスマス・カード、年賀状を送った返事が来ている。50年以上も保育に携わっている方から卒園生が還暦になったという内容の年賀状をいただいた。ここまで付き合えることは教育者、保育者に与えられた神さまからの恵みだろうと思う。これほどの宝はない。

順調に明るい一歩、一歩を歩んでいることに安堵しているが、きっと、そういう子どもだけではないだろうと思うこともある。声が出せずにいる子たちがきつといるだろう。だから、これからも出来る限りは葉書を送り続けて、邪魔にならない様に寄り添っていきたいと思っている。喜びのとき、困ったとき、どんなときにもいつでも帰ってきてほしいと願っている。

どこまで続けられるか分からないが、一年に一回以上は葉書を出し続けたいと思っている。

日毎の糧

主は大水の上にあります。主のみ声は力をもって響き、
主のみ声は輝きをもって響く。 詩篇29：3，4



「ルターの言葉から」

わたしたちがたよるべきは、ただ、主のみです。主がわたしたちの力であり、わたしたちのうちにすべてをなしてください。それゆえに、主を讚美し、主に感謝し、主のみが、わが歌となるようにしましょう。

(『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社)

平和へ力

「主のみ声は力をもって響き、主のみ声は輝きをもって響く。」と讚美し、神の力と威厳を示します。神の力の顕現です。

「11主が民を祝福して平和をお与えになるように。」という祈りは29篇のみです。

この前に「どうか主が民に力をお与えになるように。」という「力」を与えられる祈りをしています。この「力」とは「平和の力」であり、この詩編は独特な表現をしています。「祝福」は、具体的には「平和」です。

今、世界は第二次大戦後、経験もしたこともない戦いがあります。特に神の選んだ地、選んだ神の子、イスラエルが目を見詰めるような戦いをしています。ロシア正教、ウクライナ正教と宗教の同根の国々が、技術が発達した兵器を使い、戦争を続けています。地上の苦しみの中で神の力、平和の力が顕現することを祈ることを今日の私たちが最も求めていることではないでしょうか。

祈り：主よ、あなたのみ声を輝かし、響かせ「平和の力」を顕現してください。平和の力の前にすべての人が打ちのめされますように。アーメン。

甘木通信 讃美歌の話 1

教会の使用している讃美歌は、「讃美歌 21」です。これは時代に合わせて「讃美歌」を改訂したものです。私たち世代以前は、「讃美歌」に慣れてきましたから、どうしても親近感は、「讃美歌」にあります。



ブラジルにいるとき、マリンガの礼拝を終えて、次の町シアノルテの礼拝に向かう 82 キロは麦、トウモロコシ、大豆畑が続き、その中を車を走らせ、そんなとき、宮本純子先生が「みなさん、讃美歌を歌いましょう」と言われ、みんなで讃美を大合唱したことを思い出します。

讃美歌 504 番をこの道中に初めて知った。

1) 実れる田の面(も)は 見渡す限り

穂波の立ちつつ 日影に匂(にお)うは・・・

まさにマリンガからシアノルテの道は、この光景でした。みんなと一緒に大感動して、大合唱をしたことを今も鮮明に覚えています。

往復、160 キロは讃美で満ちていました。純子先生は音楽学校、日本語学校、幼稚園、オペラハウス、晩年は老人ホーム創設しました。後にマリンガ名誉市民、文化功労賞受賞。勲五等瑞宝章を受けました。この讃美歌を歌いつつ純子先生との思い出が走馬灯のように回っています。

(甘木日記)土) 静かに午前中は過ぎていく。DIE LOUSUNGE(ローズンゲン)を読み、英訳、和訳にする。日善幼稚園の庭を掃除し、甘木教会へ。日) 2025 年度、最初の主日。インドネシアの青年が 20 歳。成人を祈る。月) 幼稚園に初出勤。することも多く始まった火) 始園式礼拝。三学期が始まる。水) 3 学期の打ち合わせの職員会議。木) 自己評価委員と打ち合わせ。金) 朝に幼稚園の開園か休みかの判断をしなくてはならない。こういうことが一番、しんどい。6:30 に主任、事務の方の協力をいただき判断。雪遊びに登園した子どもたちが元気になっている。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 時間が久しぶりに過ぎた。DIE LOUSUNGE(ローズンゲン)を読み、和訳し、英訳、和訳聖書箇所、参考にラテン語を読む。頭の体操。いつまで続くやら。日善幼稚園の掃除をし、電車で甘木。泊まり。豊田の時の青年の牧師のお父さんの告別式に長男に代わってもらおう。豊田時代の信徒も行かれという。日) 2025年度、もう一つのクリスマスの最初の主日礼拝。主の導きのままに今年を歩みたい。インドネシアの青年が20歳で成人式を礼拝に組み込みお祝いする。後で分かったのだが、インドネシアは21歳が成人で、この年齢になって飲酒ができると聞く。新しい青年も来られた。明日が顕現主日なので、みんなでクリスマスの片づけをする。月) 幼稚園に2025年度、初出勤。どこまで体力が続くか分からないがやれるところまでやっつけよう。よいっしょ体を起こして。火) 始園式の礼拝。三学期が始まる。子どもたちは落ち着いている。先生方に高いケーキとシュークリームをお茶の時にプレゼント。休みすぎが少々体力が追いつかない。右足が痛む。座骨神経痛だろうと思う。ツボに家内に灸をしてもらおう。足は自分で。天に交通事故で帰られたマリナーの宮本耶恵子先生だったら吸い玉をしてくれるのだがと懐かしく思い出しながら、あの吸い玉が懐かしい。水) 誕生日を迎えたn先生にフラシスコのT十字架をプレゼント。職員会議の前にホームセンターに行き、ついでに三色すみれの花60株を購入。もう先は限られていると思うと、こういう大量の買い物をしてしまう。午後から職員会議。蓮華、菜の花の種が送られてくる。遅いが、甘木の教会の庭に蒔こう。蓮華畑の花の美しかった思い出を忘れられない。木) 来学期へむけての職員の自己評価を踏まえ、自己評価委員と先生方と面接するための打ち合わせをする。理事長をしている東京のH幼稚園の園長が病気で休んでいるので、副園長、園長補佐とzoomで仕事の打ち合わせをする。便利な時代になった。帰ると昔、金がなくなるとほうれん草と豚のバラ肉の鍋。昔は材料は安かったが、今は高い。金) 雪のための幼稚園を開判断が難しい。開いて、子



くか休みにするか、子どもたちと雪遊び。